

# 平安京右京三条一坊三町

発掘調査現地説明会資料



墨書土器「計帳所」

1997年 8 月23日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

## 平安京右京三条一坊三町発掘調査現地説明会資料

所在地	京都市中京区西ノ京梅尾町1-6、3-7
調査期間	南調査区 1996年10月28日～1997年5月2日 北調査区 1997年5月8日～継続中
調査面積	南調査区 2,500㎡ 北調査区 2,000㎡
調査主体	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

### 調査の概要

JR二条駅周辺は、再開発に伴う発掘調査をここ数年間継続しています。今回の発掘調査も同様です。さて平安時代、平安宮にほど近いこの付近には、宮の外に設けられた京職きょうしきや穀倉院こくそういんなどの役所が置かれていたことが史料に見受けられます。現在、発掘調査を実施している場所は、平安京右京三条一坊三町あたり『拾芥抄』しゅうがいしやうには、右京職が記されています。

今回の調査区は、おおむね三町の西半部に位置しています。昨年度は、敷地の南半部を調査し平安時代前期の遺構や遺物を検出しています。現在実施している北側の調査でも、平安時代前期や後期の遺構を確認しています。

#### 〈検出した主な遺構・遺物〉

- 南調査区 ・遺構 建物1棟、掘立柱建物1棟、溝（東西2条・南北2条）、  
土壇どこう1基、落込み1基、井戸1基、柵列5条
- ・遺物 土器（土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器）、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・鬼瓦）、硯すずり、題だい箋せん（弘仁七年-816年）、土馬こうにん、土錘どすい、錢貨ふじゅしんぼう（富壽神寶・饒益神寶ぎょうえきしんぼう）
- 北調査区 ・遺構 掘立柱建物1棟、溝3条、瓦溜かわらだめ1基、柵列2条
- ・遺物 土器（土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器）、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦）、輸入陶磁器

### 〈墨書土器について〉

今回の調査で注目される遺物に墨書土器があります。これらの土器は、昨年度から今年度にかけて実施しました南調査区から出土しました。出土したのは、建物を取り囲むように設けられた溝内からです。文字が書かれていた箇所は、ほとんどが土器の底部外面です。

現在までに判読できた文字は「計帳所」「右籍所」「籍所」などです。文字の記されている土器は、土師器・須恵器・灰釉陶器などで、いずれも9世紀代のものです。

これらの文字は一体何を意味しているのでしょうか。例えば「計帳所」の計帳とは、一般的に古代律令制下の公文書の一つで、戸籍と併せて籍帳と連称されています。律令制における民衆を支配するうえの基礎となる極めて重要な官簿であると考えられています。「計帳所」とは、こうした帳簿を取り扱うところであり、「計帳所」と記された墨書土器は計帳所内で使用されていたものと推定されます。

### 調査成果

右京三条一坊三町跡で検出した建物、柵列、井戸、土壌などの遺構は、土器に記された墨書の内容や『拾芥抄』『西京図』などから、平安京右京に設置された右京職に関係するものと判断されます。墨書土器が顕著に出土した付近には、「計帳所」「籍所」「右籍所」などに携わる建物が存在していた可能性が考えられます。

今回の調査では、墨書土器の内容から遺跡の性格を具体的にすることができました。

※右京職 <sup>しやくしやう</sup>職掌は平安京右京域の行政全般にわたり、詳細は『延喜式』（巻第四十二）に記されています。現在に例れば、京都市役所・警察・地方裁判所を一緒にしたようなものです。



図1 調査位置図

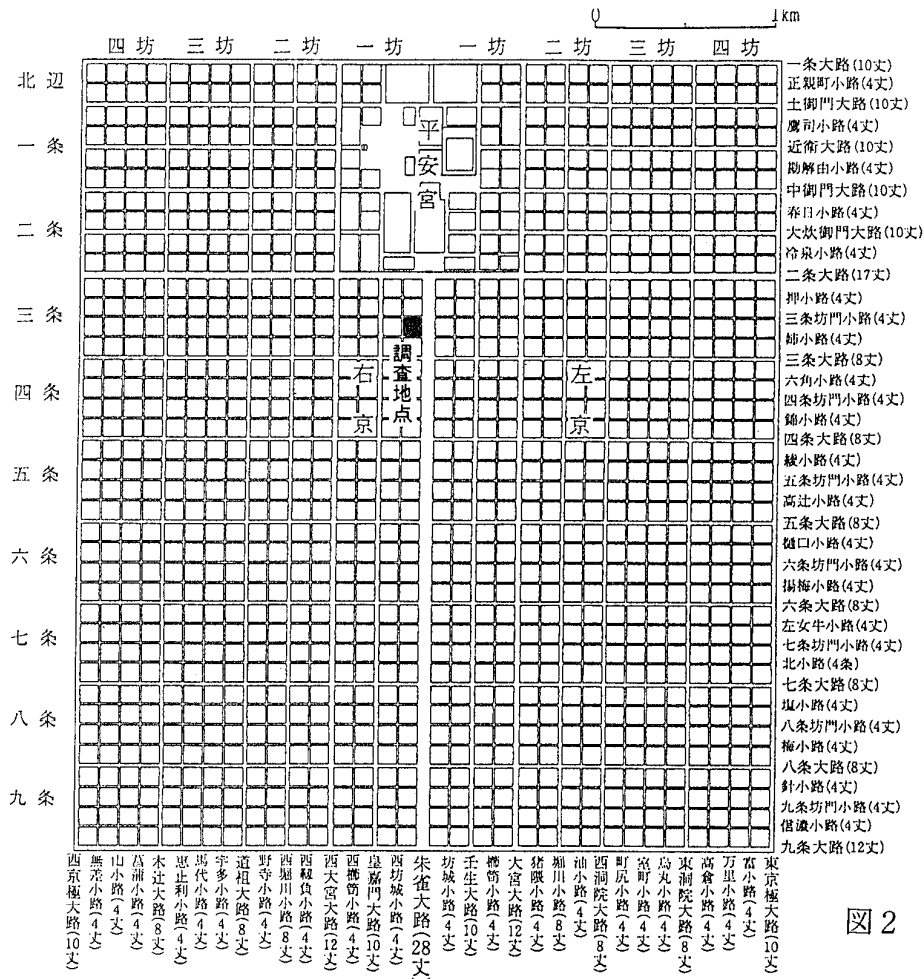


図2 条坊図

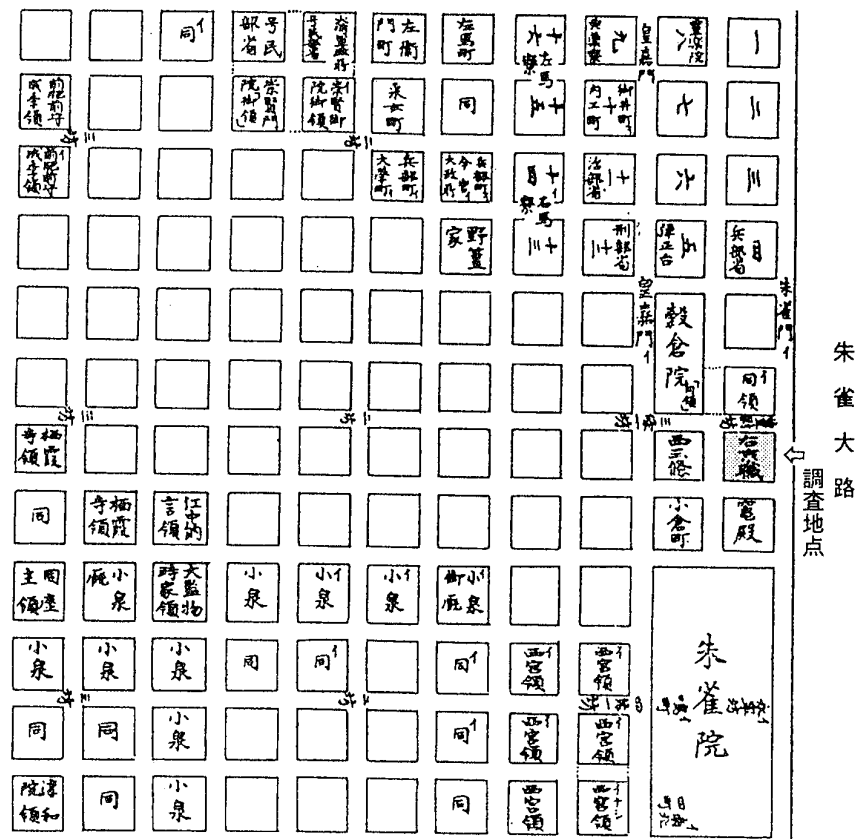


図3 『拾芥抄』付図

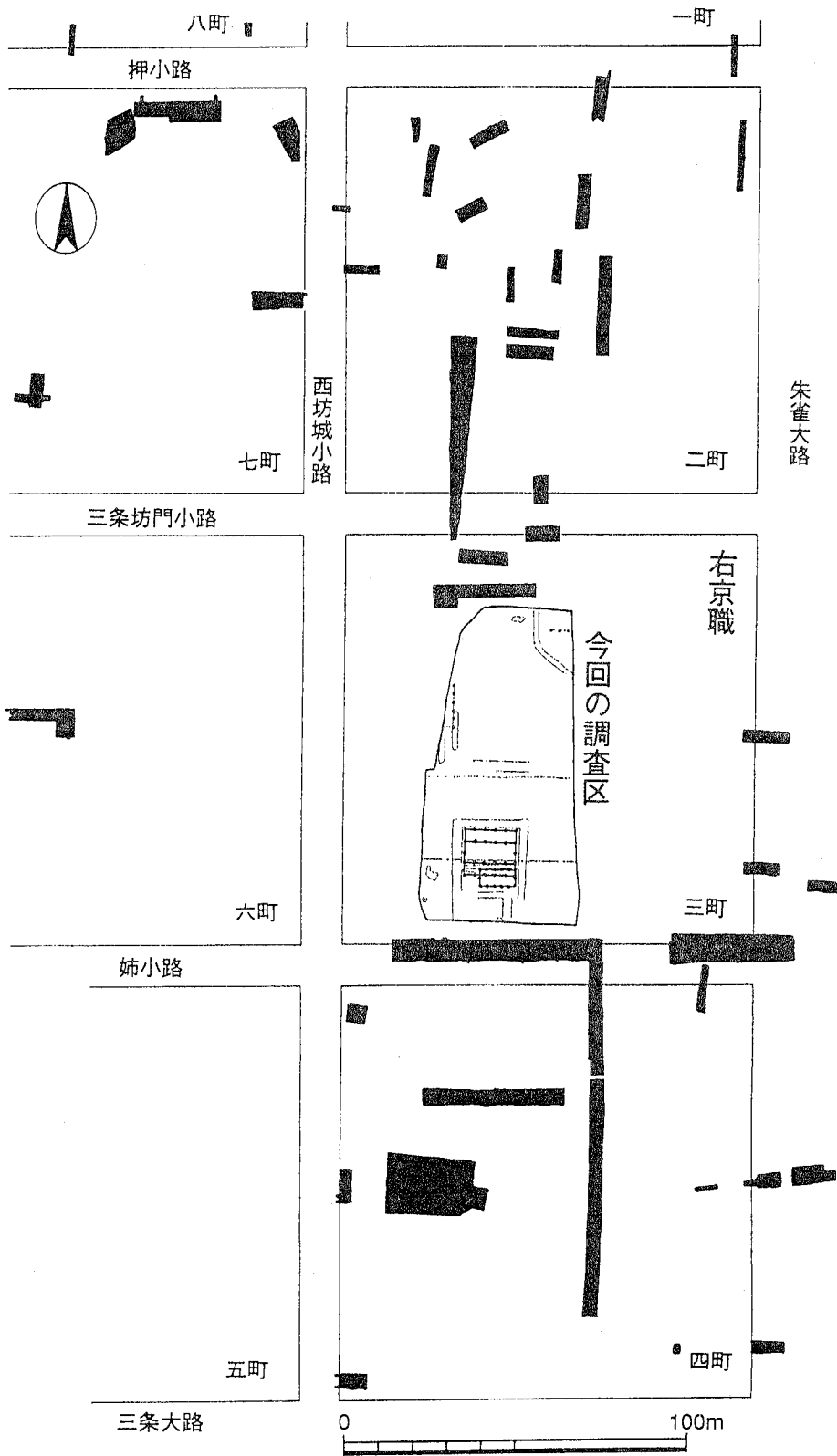


図4 調査区配置図

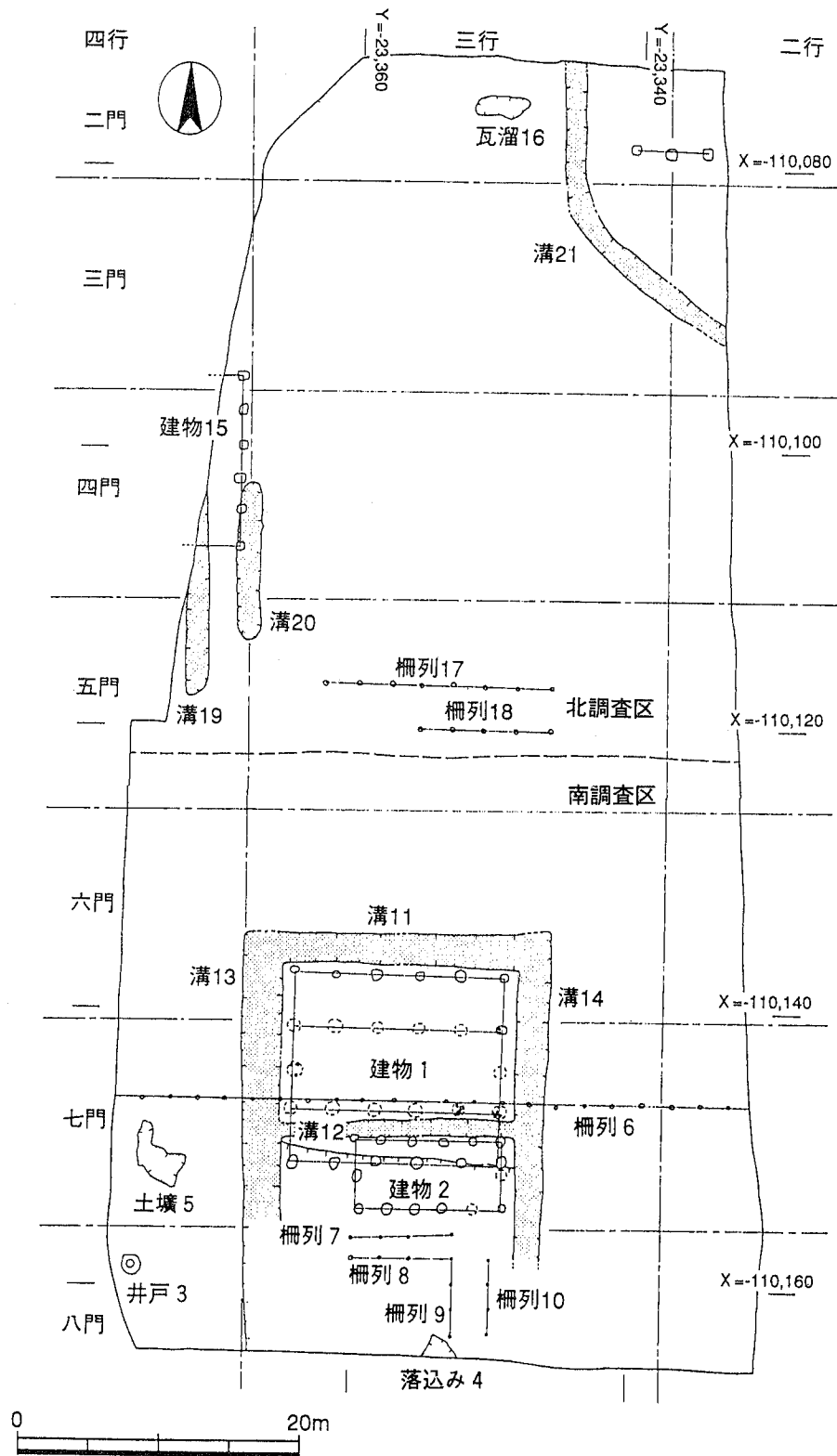


図5 調査区平面図

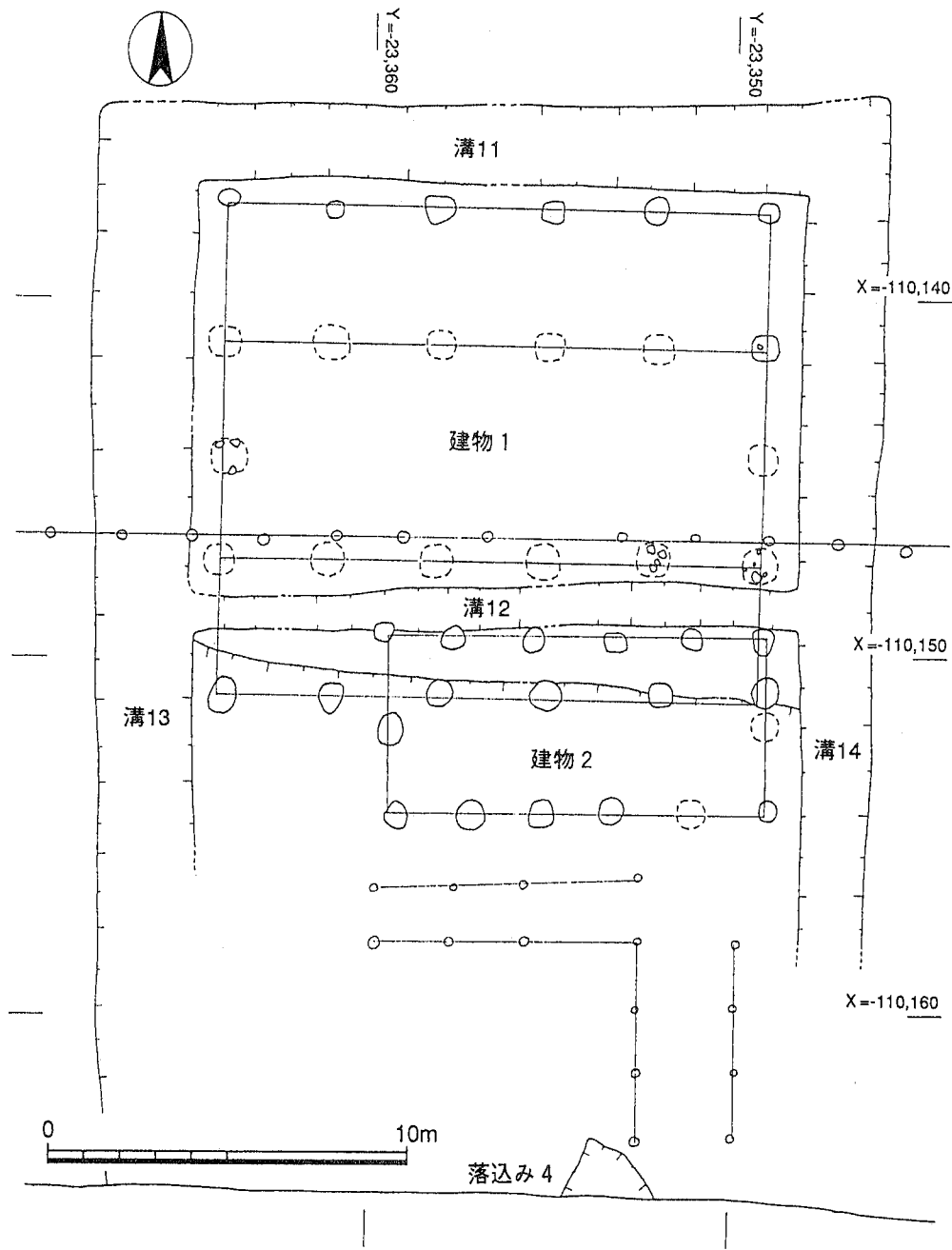


図6 南調査区 建物配置図





写真1 調査区遠景（南西から）

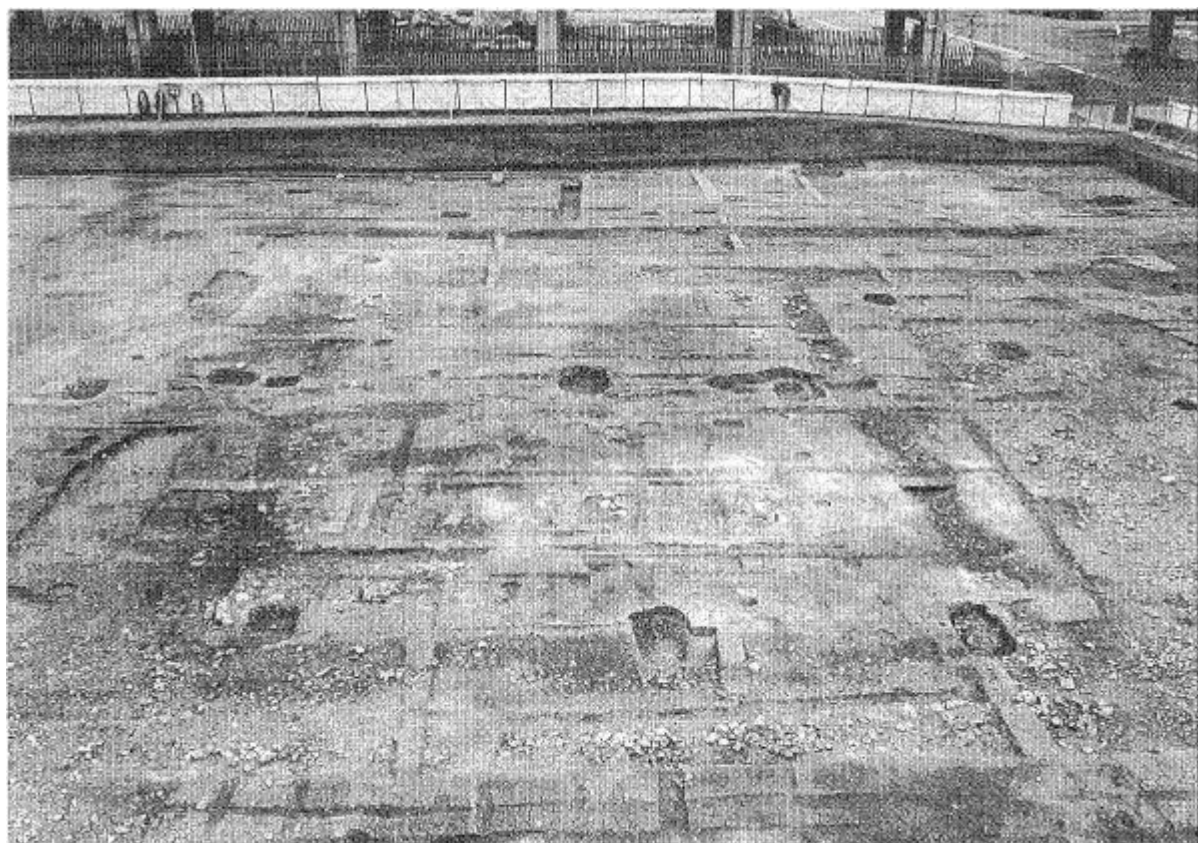


写真2 南調査区全景（西から）



写真3 南調査区 建物1南側柱穴列（東から）



写真4 南調査区 建物1北側柱穴列（東から）



写真5 南調査区 建物1柱根



写真6 南調査区 落込み4題箋出土状況